

平成 2 5 年 度

授業改善犬山プラン

－ 少人数学級・少人数授業

を通して自ら学ぶ力を育む －

犬山市小中学校長会

犬山市教育委員会

平成25年度授業改善犬山プラン

－ 少人数学級、少人数授業を通して自ら学ぶ力を育む －

1 基本的な考え

- (1) 犬山の教育は、自ら学ぶ力を柱と位置づけ、人格の完成をめざす。そのため、学級編制や教育課程の編成などについて学校現場に裁量を委ね、幅広い人間性と学力の形成に努めるとともに、教師の資質・能力の向上を図り、学校の活性化を図る。
- (2) 少人数学級及び少人数授業・TT授業、複数学級による合同授業など、授業改善につながる学習環境の整備に努め、一人ひとりに目の行き届いたきめ細かな指導や個に応じた多様な学習活動の展開を図る。
ア 子ども同士、教師と子どもとの人間関係を築きやすく、子ども主体の学びの授業を可能とする学習環境として、少人数学級を推進する。
イ 市費非常勤講師の活用を図り、少人数学級及び少人数授業・TT授業を推進する。
- (3) 国や県の35人学級編制による小学校1・2年、中学校1年の少人数学級に加え、学校裁量による少人数学級を実施する。子どもたちの発達段階や各校独自の教育課程、学級担任及び教科担任の担当授業時数等に配慮し、学級集団としての適性人数については弾力的に考え、柔軟に対応する。
- (4) すべての子どもに等しく学ぶ機会と環境を保障していく観点から、通常学級に在籍し特別な支援を必要とする子どもたちへの指導の充実を図るために、特別支援教育支援員を配置する。

2 「授業改善犬山プラン」の歩み

- 平成13年度 … 市費非常勤講師を28名採用し、少人数授業・TT授業の充実を図る。
- 平成14年度 … 市費非常勤講師を40名に増員し、少人数授業・TT授業を本格的に実施。
- 平成15年度 … 校務主任を学級担任とする少人数学級編制を3小学校で実施。市費非常勤講師を44名に増員し、中学校1校に保健室指導助手を配置。
- 平成16年度 … 少人数学級・少人数授業を併せて行う「授業改善犬山プラン」を策定。
学校の裁量により、教務主任・校務主任等を学級担任とする少人数学級編制を実施。 (小5校、中4校の計9校で、合計14の少人数学級編制を実施)
市費非常勤講師を62名に増員し、小学校にも保健室指導助手を1名配置。
- 平成17年度 … 東京大学の協力を得て、子どもや保護者、教師を対象にして実施した「教育改革システム評価」において、少人数による学び合いの授業の成果が高く評価された。少人数学級編制は、小4、中4校の8校の計12学級で実施。
市費非常勤講師は65名、保健室指導助手は2名を配置。
- 平成18年度 … 30人学級の実現をめざして検討を進め、市職員の勤務時間等の条例改正をまって、7月1日より市費負担教員1名(市費非常勤講師からの切り替え)を配置。少人数学級編成は、小6、中4校の10校の計18学級で実施。
市費非常勤講師等の配置は前年度と同じ。
- 平成19年度 … 更なる30人学級の実現のために、8名の市費負担教員を配置。小7、中4校の計11校で、計25学級の少人数学級編制を実現。
市費非常勤講師は54名、保健室指導助手は2名を配置。
- 平成20年度 … 7名(小6、中1)の市費負担教員と、市費非常勤講師54名、保健室指導助手2名を配置し、11校(小7、中4)で合計21学級の少人数学級を実施。
特別支援教育支援員3名を小学校7校へ週2～3日の割合で配置。
- 平成21年度 … 市費負担教員6名(小6校)と、市費非常勤講師48名、保健室指導助手2名を配置し、9校(小6、中3)で合計19学級の少人数学級を実施。
特別支援教育支援員4名の増員を図り、小学校7校に1名ずつ配置。
- 平成22年度 … 市費負担教員8名(小8校)と、市費非常勤講師47名、保健室指導助手2名を配置し、10校(小6、中4)で合計17学級の少人数学級を実施。特別

- 支援教育支援員4名の増員を図り、小学校4校に2名、3校に1名を配置。
- 平成23年度 … 市費負担教員6名(小6校)と、市費非常勤講師52名、保健室指導助手2名を配置し、11校(小7、中4)で合計20学級の少人数学級を実施。特別支援教育支援員4名の増員を図り、小学校7校に2名ずつ配置。
- 平成24年度 … 市費負担教員7名(小6校)と、市費非常勤講師54名、保健室指導助手2名を配置し、10校(小7、中3)で合計21学級の少人数学級を実施。特別支援教育支援員1名の増員を図り、小学校1校に3名、6校に2名ずつ配置。

◎ 「犬山の子は犬山で育てる」という理念の下、自ら学ぶ力を中心とした人格形成をめざしてきた。そのために行ってきた学習環境の整備は、少人数授業やTT授業、少人数学級等を実現するための人的配置に重点を置いた。その結果、各学校では、特色ある学校づくりがおおいに推進されるとともに、子どもたちの学び合いの授業が算数・数学や理科にとどまらず、多くの教科で行われるようになった。授業公開等を参観した多くの保護者がわが子の成長した姿を目の当たりにし、少人数授業等の効果は肯定的感想として数多く学校に寄せられている。また、教師間の交流も次第に活発化し、教師の資質向上が図られている。

3 平成25年度「授業改善犬山プラン」の具体的内容と犬山市の支援

(1) 学習集団と生活集団を同一とする学級規模を30人程度と考え、少人数学級編制を推進する。学級担任として県費負担教員の活用を図るが、さらに学級担任が必要な場合は、市費負担教員を配置する。子どもたちの発達段階を考慮し、特色ある教育課程が編成できるよう、1学級の児童生徒数が34人～35人を超えた学年で少人数学級を編制し、30人程度学級の実現を図る。

※ 1学級の児童生徒数を30人と定めるが、「30」については弾力的に運用する。

(2) 小学校の算数、中学校の数学・英語の授業で少人数授業を実施する。また、小中学校の理科の授業でTT授業を実施する。少人数学級と少人数授業・TT授業などの組み合わせにより、創意あふれる授業づくりをめざし、子ども主体のきめ細かな授業を展開する。なお、少人数授業・TT授業等で培われた指導法や教材づくりの成果を生かし、すべての教科、すべての領域において少人数のよさが生きる授業改善に努める。

(3) すべての子どもの学びを保障するという観点から、通常学級に在籍しながら特別な支援を必要とする子どもたちの学びを保障するために、特別支援教育支援員を配置する。

(4) 学校運営にかかわる人的支援

ア 大規模校への保健室指導助手を配置する。

イ すべての小中学校に校務支援者を配置する。

ウ 各学校の要請に応じて授業づくりコーディネーターを派遣する。

(5) 市費負担教員及び非常勤講師の配置に係る考え方

市費負担教員及び市費非常勤講師の配置は、原則として次の優先順位で行うこととするが、各学校と市教委が協議の上で決定する。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ① 小学校では少人数学級(30人程度)を優先し、学級担任として県費負担教員の活用を図り、さらに学級担任が必要な場合は市費負担教員を配置する。 ② 少人数学級が実施できない学級において、少人数授業を行うための市費非常勤講師を配置する。 ③ 小・中ともに、理科の授業でTTを行うための非常勤講師を配置する。 ④ 大規模学校に保健室指導助手を配置する。 ⑤ 中学校では、数学や英語の少人数授業、理科のTT授業を全学年、全学級で実施できるように市費非常勤講師を配置する。 |
|---|

<ul style="list-style-type: none"> ◎ 通常学級に在籍しながら特別な支援を必要とする子どもたちの学びを保障するために、特別支援教育支援員を配置する。
--

